

論文番号	(第 18 回研究会 2019.7.13 於青山学院大学)
タイトル	とりたて副詞「ただ」と中国語の“只(是)”との比較対照
著者名(所属)	呉慶霞(早稲田大学大学院文学研究科)
連絡先 Eメール	136720202@qq.com 或いは、kasumi@akane.waseda.jp
論文内容	
<p>(背景および研究目的)</p> <p>中国人学習者には「婚姻届けは<u>ただ</u>紙だ。」のような誤用が見られる。これは中国語の“只是”の干渉と考えられる。また、日本語には「はじめて恋人と手を繋いだ。<u>ただただ</u>嬉しかった。」のような使い方がある。このような使い方が存在することについて、中国人学習者は気づきにくい。従来の研究はとりたて副詞「だけ」と“只”の比較に偏っており、とりたて副詞「ただ」と“只(是)”の比較についての論文は管見の限りでは一つもない。そこで本発表は副詞「ただ」と“只(是)”の意味用法の比較対照を目的とする。具体的に言うと以下のようなものがある。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①「ただ」と“只(是)”の意味をそれぞれ分類し、比較する。 ②「ただ」と“只(是)”の述語の品詞性・肯否制限を考察したうえ、両者を比較する。 ③“只”と“只是”の違いを検討する。 ④中国語の限定副詞“只(是)”と「量」の関係を分析する。 <p>(結果及び考察)</p> <p>意味について、(1)「ただ」は「他の特異な属性の不在」を表すタダ 1 (好きという気持ちはなく、ただ仲がいいだけ。)と「属性の純粋さの強調」を表すタダ 2 (はじめて恋人と手を繋いだ。ただただ嬉しかった!)に分類できる(呉 2019)。(2)“只(是)”はタダ 2 の意味を持たない(*第一次牵起了恋人的手, 只(是)很开心)。(3)“只+心理動詞”は文脈によってはタダ 2 に近い意味を表すことがあるが(第一次牵起了恋人的手, 只觉得很开心)、タダ 2 と完全に一致するわけではない。“只觉得”等は当該属性に焦点を当てるという点でタダ 2 と似ているが、重複形を持たず、複数回スキミングすることもないため、属性の純粋さを強調することができない。それ自体で高程度の意味も表せない。(4)日本語は「限定」によるのに対し、中国語は「全量」を表す“满/尽”により属性の純粋さを表す。この意味で中国語は日本語より厳しいと言えよう。</p> <p>述語の品詞性に関しては(1)「ただ」も“只”も名詞文には使えない。“只是”は微小評価を表す場合は名詞文に使えないが、単なる「ランクの反映」の場合は使える(他不是市长, 只是省长)。(2)日本語は連体詞「ただの」に置き換えれば名詞文も成立するが(婚姻届けなんてただの紙だ)、中国語では数量詞が必要である(结婚证只是张纸)。(3)“只(是)”は微小評価を表す場合は「少量表現」を必要とする(他没有心情回答, 只(是)笑了笑)。(4)形容詞文の場合、“只是”は「ただ」と同じく、程度の順序性があり、より低い程度の属性しかとりたてない。(*あそこは涼しくなく、ただ寒いだけだ。/*那里并不凉, 只是有点儿冷。)述語の肯否に関しては、両言語とも否定には使えない。</p> <p>“只”と“只是”の違いに関しては“只是”は“只”より外側の階層にあり、モダリティについての制限を持つ。“只”は「ただ」に近いが、“只是”は実際は「ただ~だけだ」と対応している。</p> <p>この比較対照を通じて、中国語は「量」を厳密に示す言語であることが分かる。属性の純粋さを表すには「全量表現」を、微小評価を表す場合には「少量表現」を必要とする。</p>	
参考文献(一部)	
相澤奈穂子・佐藤琢三(2008)「多機能語「ただ」の分析」『日本語文法』8(1), 53-67	
安部朋世(2004)「単二とタダ」『千葉大学教育学部研究紀要』52, 155-160	
工藤浩(1977)「限定副詞の機能」『国語学と国語史』明治書院, 969-986	
呉慶霞(2019)「排他的限定を表す副詞の意味用法をめぐって」『2019年度春季大会予稿集』164-231	
李胜昔(1995)「副詞“只”的用法新探」『古汉语研究』S1	
李婧婷(2017)「范围副词“不过”与“只是”的句法差异及语义解释」『现代语文(语言研究版)』01	
刘悦明(2011)「现代汉语量词的评价意义分析」『外语学刊』02	